

私の工夫

性の多様性を認め合う 児童の育成 〈小学校第6学年での実践〉

倉敷市立郷内小学校

教諭 森川 友美



1 はじめに

小学校高学年の児童が「性の多様性」について学ぶことは、最初はとてもハードルの高いことだと考えていた。そこで、実践の導入部分では、「性の多様性」についていきなり触れるのではなく、「自分らしさを大切にすること」について考えるようにした。取組の中で目指したのは、自他のよさや違いを認め、自分らしさやその人らしさを大切にし、よりよい人間関係づくりをしようとする心情や態度が育つようにすること、もう一つは、多様な性の在り方について知り、性差にとらわれず、自分らしさを尊重し合うことの大切さを理解できるようにすることである。

2 トランスジェンダーの方の手記を 基にした学習による「自分らしさ」を 尊重する態度の育成

「トランスジェンダーの方が生きづらさを感じているのはなぜか」をワークシートに書く活動を設定することで、一人ひとりが当事者の気持ちを推し量ることができるようになった。また、「当事者が変わらなければいけないのか」と問いかけることにより、私たちはみな多様な性の中に位置付けているのだから、当事者が変わる必要はないことを理解できるようにするとともに、生きづらさを感じているのは、人権が守られていないことの表れであり、その誤りに気付かせたいと考えた。こうした学習を通して、多様な性を尊重し

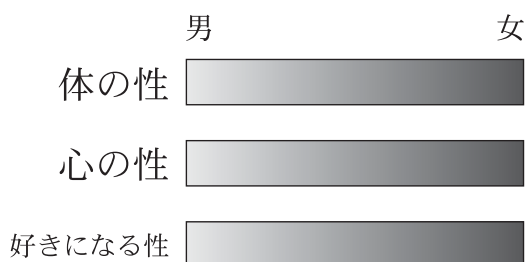
	学習活動	教師の指導・支援	学習評価
導入	1 世の中にはさまざまな人がいるということに着目する。	○人種、体格、年齢、性別、障がいの有無などが違ういろいろな人々が描かれている本の絵を提示することにより、世の中には様々な人がいるということに着目することができるようにする。	
	2 Aさんの手記を読んだ感想をもつ。	○Aさんの手記を読んで感想を書くことで、性的マイノリティ当事者の思いに着目することができるようにする。	
展開	3 3つの性について考える。	○Aさんの手記(資料1)の性に関する表現に着目させることで、体の性以外にも性のとらえ方があることに気付くことができるようにする。その際、3つの性(体の性・心の性・好きになる性)について補足説明することにより、多様な性があることを知る。	Aさんの思いについて積極的に考えたり話し合ったりしようとしている。 [関心・意欲・態度] (ワークシート・発言)
	4 「性的マイノリティ」や「LGBTQ」について知る。	○「性的マイノリティ」や「LGBTQ」について知らせ、世の中には多様な性の在り方があることについて理解する。 ○性のグラデーションの図(資料2)を見せ、みんな多様な性のいずれかに位置付けていることを伝えることで、性的マイノリティが特別な存在ではないことに気付くことができるようにする。	
	5 Aさんの思いを考える。	○Aさんが生きづらさを感じているのはなぜかをワークシートに書くことで、一人ひとりが当事者の気持ちを推し量ることができるようにする。	
	6 Aさんの思いや、望ましい社会の在り方について話し合う。	○ペアで発表し合う場を設定することで、一人ひとりが思いを伝えやすくすることができるようにする。 ○全体で意見を交流することにより、Aさんの思いについて考えたことを共有する中で、当事者の思いを共感的に受け止めることができるようにする。 ○Aさんが変わらなければいけないのかと問いかけることで、Aさんが悪いのではなく、みんなが多様なのに、人権が守られていないことのおかしさに気付く、多様な性を尊重し合う望ましい社会の在り方に着目することができるようにする。	
終末	7 本時のまとめをする。	○本時の学習で分かったことや感想をワークシートに書かせることで、性的マイノリティへの自分の思いを明確にすることができるようにする。 ○人の性や生き方は多様であり、共感的に受け止めることの大切さに気付いたり、望ましい社会の在り方を考えたりしている児童の感想を取り上げ、次時への課題意識をもつことができるようにする。	多様な性の在り方や性的マイノリティの人々の思いや望ましい社会の在り方について理解している。 [知識・理解] (ワークシート)

核となる授業の指導案

合う望ましい社会の在り方を意識することができるようにした。児童の感想には、「はじめは自分も

Aさんの手記(概要のみ紹介)

- 体は男性だが、心は女性で、男らしい格好をするのが嫌だった。
- 好きになるのは男子だが、他人にばれていじめられるのが怖くて、隠してきた。
- 中学生の時、好きな子に告白したが、男同士であることを理由にふられてしまった。
- 告白したことが周囲に知られ、からかわれたりするようになった。
- 自分はおかしいのだと思い、自分のことを嫌うようになった。



資料2 指導案中の性のグラデーション

資料1 指導案中のトランスジェンダーの手記(概要)

トランスジェンダーのことを変だと思っていた。周りの人の関わり方によって、トランスジェンダーの方は自分を嫌ったり、生きづらさを感じたりすることが多かったから、その人らしさを大切にしたい」ということや「性的マイノリティへの理解がもつと必要だと思った。周りの人がその人の心の性も分かっているといないと、その人らしさを理解することができないから、心の性も理解しようとするのが大切だと思う」というような自己の変容や性的マイノリティへの正しい理解の必要性に触れているものがあつた。

3 充実した関連学習の構想

4時間の学習活動で単元を組んだ。核となる授業の前時の学級活動では、性差にとらわれず、自己のよさを認め合い、よりよい人間関係づくりをしようとする心情や態度を育てるといふねらいで授業をした。児童は、男らしさ・女らしさではなく、自分らしさを大切にしていきたいという思いをもつ

思う。

4 おわりに

児童の最後の感想に、「お互いが認め合い、平等に接することでみんなが自分らしさを大切に生きやすい社会になると思う」「一人ひとりに個性や価値観があるからそれを否定したりからかったりせずに受け入れ合うべきだ」というものがあり、自己のよさを認め合い、大切にしようという思いをもつことにつながったと感じた。中には、「実際にトランスジェンダーの方に会った時に、こう声をかけたいという思いはあるけど、できるかは確かではないから、できるように頑張りたい」「自分ならどう行動する?と聞かれると困るけど、いざという時のためにこの授業があつてよかったと思う」という感想もあつた。自分の今後の生き方を考えるきっかけになったことが成果だと思ふ。今後の課題としては、児童が自分を尊重し合つて行動することについて考えたことを実践できるように支援していくことだ。